蔵前の説明

１　平面図　それでは蔵前の説明をします、蔵前は前の方の説明の通り北蔵前、南蔵前、中蔵前に分かれています、さらに中蔵前は通路状の部分と室内に分かれています。
この部分の断面図が次の図面になります。

２　断面図になります。現在の屋根はトタンとカラー鉄板葺きになっています。二つの蔵が内蔵としてつくられ、その蔵と母屋を繋ぐ連絡用の部屋としてつくられたのが分かると思います。

３　北蔵前の内装です、竿縁天井で壁は砂壁です、この様な釘隠しも各所にあり、長押は母屋の物と似ています。床は現在、床板が表しになっていますが、この蔵の入口部分の床の納まりから当初は畳で仕上がっていたと云うことが推察できます。

４　南蔵の内装になります、天井は竿縁天井で壁は漆喰です、長押は母屋や北蔵前とは別なものが使われ 2 種類の釘隠しもある所とない所があります、床は畳が敷いてあります。

５　南蔵前の外装です、母屋の脇は濡れ縁があり、雨戸が摺りあげ戸、いわゆるしとみ戸になっています、この戸は現在も現役として使われています。こちらに出窓があります、屋根の部分にそりがあり木製で丁寧に作ってあります、この屋根の傷み具合や窓の建具、レール等を調べると先ほど明治 10 年（1877 年）の施工と言いましたが、約 130 年前の作りとは思えないので途中で修理したか造りかえたかしたのではないかと思いますが、現在の調査ではそこまでわかりませんでした。

６　中蔵前の内装です、天井は張って無く屋根材が表しになっています。壁は漆喰、一部板張りで長押はありません、床は板張りです。

７　こちらの写真は母屋側から見た中蔵前の内装です、左側が南蔵前さらに南蔵になります、下のほうに蔵の金具が見えます、そしてその外側に中蔵前の柱があります。さらに南蔵前の柱は写真では分かりませんが腰巻の部分に喰い込んでいました、こちらの中蔵前の柱は完全に外側にあたる所にあります、これは南蔵を作った後に中蔵前を作った事になり、一時期はこの部分が外部であった事になりますので、この窓の鉄格子も説明がつきます、しかしこの窓の柱にほぞ穴の様なものがありますがこの部分はなぜなのかまだ分かりません。

８　これは中蔵前の外装です、通路状の中蔵前の窓に鉄格子が入っています、奥の窓にはサッシが入っていますが、この通路状の部分は奥の部分が無いと作れない様な構造になっているので、詳細を確認していませんが、当初は鉄格子が入っていたことが推測されます。

　また、この通路状の部分が北蔵の床下換気口をふさいでいることから、北蔵より後から施工されたことになります。すると中蔵前は両方の蔵前より後から作られたことになりますこれは先ほど母屋班の見解と矛盾すると思いますので、さらに調査が必要かと思います。

９　これは北蔵前の外部です、屋根の部分になりますが、次の写真はこの部分を北蔵前の屋根の上に乗り母屋側を見た写真になります

10　白い漆喰で補修した部分が見えますが、細部にわたり調査した訳ではありませんので、確信は持てませんが、この部分を見ますと、漆喰の補修した形状、厚さ、その上の補修の状況、これらを見ると少なくもこの蔵前を作った時点では一階の屋根の部分に瓦が乗っていてその屋根のけらばの部分を解体して、北蔵前を作ったのではないかということが推測できます。この部分は補修が分かる数少ない所ですので、後日詳しく調査したいと思いました。